うぶすな

～ふるさとを見る・知る・探す！～

岩田健三郎・画　「学問成就の道」

うぶすなとは「生まれた土地（故郷）」という意味の言葉です。井上通泰（みちやす）と柳田國男が幼いころを過ごした鈴ノ森神社のヤマモモの木を詠んだ歌も、この言葉からはじまっています。

第5号

神崎郡歴史民俗資料館　平成27年度の催し報告

戦後70年　～戦争の記憶の継承～

特別展 7/25～11/23

戦後70年 福崎と戦争の記憶

平成27年は、戦後70年の節目の年でした。

資料館では、開館当初から収集してきた館蔵の戦争関連資料を中心に、協力を得て特別に展示した資料などから、戦時下の福崎地域の人々のくらしを紹介しました。

会場には平和への願いを込め、トライやる生が制作した「折り鶴モニュメント」を設け、来館いただいた方々に、展示を見て感じたことや平和メッセージを書いて、折り鶴を折っていただきました。

また、12月5日（土）に開催した「福崎町人権・青少年健全育成フェスティバル」会場にもモニュメントを設置し、参加者からたくさんの折り鶴が寄せられました。

約2,600羽の折り鶴は、千羽鶴にして広島市の平和記念公園内にある「原爆の子の像」へ捧げました。

みなさんのご協力ありがとうございました。

戦争関連資料229点が一堂に

折り鶴モニュメント

千羽鶴

講演会「語り継ぐ、戦争の記憶」

8月8日（土）に開催した講演会では、福崎町在住の3人の戦争体験者をお招きし、厳しい戦争の体験をお話しいただきました。

資料館では 戦争の記憶を次世代に継承するため、記録集を作成しました。講演会に参加いただけなかった方にも手に取っていただきたいと思います。

特別展図録もあわせてご購読ください。

満席の講演会場

講演会記録集（1冊 300円）

写真の収集にご協力ください！

昭和30年頃の月見橋

昭和30年代の福崎駅前通り

平成28年、福崎町は町制施行60周年を迎えます。そこで資料館では、福崎町が誕生した昭和30年代に焦点をあて、町村合併や当時のようすを特別展などで紹介します。

展示に際し、昭和30年代の福崎町の町並み、人々のくらしがわかる写真などを探しています。お持ちの方は、資料館までご連絡ください。（☎0790－22－5699）

松岡鼎（かなえ）について

松岡家当主　松岡　祐之

松岡鼎は明治12年、「日本一小さい家」と家督とを受継いだ後、医学を志し上京しました。経済的には恵まれていたとはいえず苦労が多かったと思います。

縁あって関東に居を構え、地域医療・行政に力を尽し、一生を過ごしました。故郷に戻る時間的余裕があまりなかったようですが、両親の墓域の一隅に、追遠・懐徳・不忘と刻んだ3つの碑を建て、望郷の思いを託しておりました。

父の思い出話によりますと家庭内での祖父の兵庫流言い廻しに自然感化され、父が周囲の人に関西出身かときかれる程、話し方に影響を受けたようだとのことでした。

1世紀半を経て、往年の気風・面影が相当に薄れてまいりましたが、改めて古い資料に目を通してみると、地域に開かれた目、一族の結び付き、時勢に流されない強い気力などの重要性が感じ取れます。最近、絆という言葉は安易に用いられているきらいがありますが、本当の意味での絆を大切にして行きたいと考えております。

民俗学と出会い、郷土を再発見する

関西学院大学大学院
社会学研究科　谷岡　優子

皆さんは郷土を再発見するという体験はありますか。ここでいう再発見とは、これまで当たり前のものとして捉えてきたものを違う見方で捉え、新しい発見を得るということです。

近年、私が郷土を再発見するという体験を得たのは、研究室の後輩たちが私の郷土の長崎で約1週間の調査実習を行ったことがきっかけでした。実習期間中、後輩たちは、事前に自身で調査対象を設定し、「聞き取り調査」や対象者と信頼関係を築いた上で「参与観察」を行い、問題解明のため、日夜調査に励みます。

この調査成果を後輩から聞くたび、私は、郷土について多くの知らないこと、新しい捉え方を教えられ、郷土を再発見するに至るのです。また、後輩たちもこの経験を経ると、何処の土地へ赴いても民俗学的関心を発見するようになり、彼らもいつか郷土を再発見するようになるでしょう。

民俗学との出会いを機に、皆さん自身も知らない郷土を再発見してみませんか。

うぶすな　第5号
平成28年3月17日発行
福崎町立柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
兵庫県神崎郡福崎町西田原1038-12
TEL 0790-22-1000
◆休館日
月曜日（祝日は開館）
祝日の翌日（土・日は開館）
12月28日～1月4日
◆開館
午前9時～午後4時30分
（入館は午後4時まで）

編集後記

平成28年（2016）は、井上通泰生誕150年の節目の年です。

通泰は眼科医の道を進みながら、歌人・国文学者としても活躍し、その研究成果が宮中でも評価され御歌所（おんうたどころ）寄人や宮中顧問官をつとめた人物です。

平成28年度も通泰をはじめとする松岡五兄弟の功績をお伝えします。

平成28年度の催し

- ●記念展「井上通泰展」
- ●第37回山桃忌
- ●第3回柳田國男検定
  初級編／中級編／上級編
- ●第4回福崎町柳田國男ふるさと賞
- ●遠野市友好都市交流企画展

柳田國男・松岡家記念館／柳田國男生家

兵庫県指定文化財

第36回山桃忌

山桃忌は、柳田國男とその兄である井上通泰の祥月にあたる８月に、２人の偉業を偲んで開催している行事です。

第36回山桃忌を８月１日(土)と２日(日)に開催しました。

１日目は「第１部　柳田國男の故郷七十年」をテーマに、福崎に伝わる江州音頭披露のあと、基調講演、記念講演、シンポジウムを行いました。

２日目は「第２部　日本の郷土芸能」と題し、農村歌舞伎を上演しました。

活気あふれるシンポジウム会場

観客を感動させた農村歌舞伎上演

第２回柳田國男検定 初級編／中級編

柳田國男検定は、柳田國男への理解を深めることを目的とした取り組みです。今年度は新たに中級編を行いました。

第２回柳田國男検定 初級編と中級編を、８月２日(日)に実施しました。初級編では受験者52名のうち26名、中級編では受験者49名のうち22名が、合格されました。

最高得点賞は初級編２名、中級編３名、そして中級編の奨励賞は２名に贈られました。

第３回福崎町 柳田國男ふるさと賞

福崎町柳田國男ふるさと賞は、福崎町内の小中学生が地域の歴史や文化を調べた作品の中から選ばれます。

柳田國男ふるさと賞が３回目を迎えました。入賞作品は「福崎町子どもふるさと展」で展示しました。

〔ふるさと賞〕

【小学生低中学年の部】　田原小学校４年　大塚みつきさん　「福崎町と戦争」

【小学生高学年の部】　高岡小学校６年　小西風羽さん　「名字について」

【中学生の部】　福崎西中学校１年　松下磨生さん　「僕の住む駅前地区の夏祭り　～福崎駅前道分稲荷祭りについて～」

入賞作品 42 点を一堂に展示

遠野市友好都市 交流事業

展示交流では、福崎町と遠野市が、それぞれの地域・文化を紹介しました。

福崎町の交流企画展

「柳田國男生誕の地　福崎町 ～『故郷七十年』にみる國男のふるさと～」

会場：遠野市立博物館

國男の自叙伝ともいえる著書『故郷七十年』から幼少期の國男が見聞したことを写真パネルで紹介し、國男が卒業した昌文小学校の証書、『故郷七十年』や当時の新聞記事を展示しました。

『故郷七十年』

遠野市の交流企画展

「遠野物語と妖怪」

会場：柳田國男・松岡家記念館

「遠野物語拾遺」に登場する天狗の遺品と伝わる下駄や湯のみ、『遠野物語』に登場する市内の妖怪スポットをパネルで展示しました。

下駄と湯のみ

平成 27 年度の催し報告

松岡鼎生誕 155 年　柳田國男生誕 140 年　柳田國男・松岡家記念館開館 40 周年

記念展 7/25 ～ 11/23

松岡 鼎展 ～柳田國男を導いた兄～

日本民俗学の父と称される柳田國男には、松岡鼎という兄がいます。

鼎は松岡家の長男として、松岡家と國男をはじめとする弟たちを支え続けました。

本展では、福崎で教育者としてつとめたあと、医学の道へと進み、さらに地方政治家しても活躍した鼎の功績を、遺された資料や写真で紹介しました。

松岡兄弟寄せ書き（右から井上通泰、柳田國男、松岡静雄、松岡映丘）
大正 11 年 4 月 24 日　個人蔵

教師になる

鼎は、教員を養成するための学校である師範学校で学びました。17 歳で飾磨県の教員試験に合格し、小学校の教員になりましたが、ふたたび師範学校で学ぶ道を選び、県内のトップ校である神戸師範学校（現神戸大学）へと進みました。

第１期生として神戸師範学校を卒業したあと、郷里の辻川に 20 歳で戻り、昌文小学校（現福崎町立田原小学校）の校長となりました。

医者になる

鼎は両親や弟たちに仕送りをしながら勉強をしていたため、高価な医学書を買うことができませんでした。そこで、友人から医学書を借りて、ノートに写して勉強をし、医科大学をめざしました。

その後、帝国大学医科大学別課医学科を卒業し、27 歳で医者となりました。そして、現在の千葉県我孫子市布佐で病院を開業しました。

また、正しい病気の予防対策を伝える活動や継続的に啓発活動できる組織づくりに取り組みました。

鼎の講義ノート　当館蔵

政治家になる

鼎は日本赤十字事業や郡制事業にも尽力し、政治活動にも加わっていきました。

そして、68 歳で布佐町長に当選し、利根川にはじめてかかる橋の建設に着手しました。この橋の名前は栄橋といい、弟の井上通泰が名づけました。

建設中の栄橋　個人蔵